

## 1 概要

平成29年度は念願の「京都に八一の歌碑建立」が東寺に実現した。多くの方の協力と熱い思いのお陰だ。30年3月27日、京都の東寺境内で関係者約150人の参列のもと、盛大に除幕式を行った。東寺を訪れる観光客の関心を引いている様子が東寺の関係者から聞かれる。

展示は特別展1回、企画展3回。残念ながら年度を通した入館者数は6,000人を割り込んだ(28年度7010人)。月別比較で29年は7～9月の落ち込みが大きかった。ただ、28年7～9月は特別展の開催期間だったので単純比較には無理があるが、29年の同じ時期の「芝蘭の交わり～八一と麻青の書画」は、「歌人式場麻青」の知名度がいま一つで引き付ける力に乏しかったかもしれない。

【展覧会】 特別展「禅—早稲田大学會津八一記念博物館富岡コレクションを中心に」(10月6日～12月10日)は、糸魚川市出身の実業家・富岡重徳氏の収集品を所蔵する早大博物館から作品を借り、「禅」をテーマに八一の禅書画を展示した。同時に新潟市から良寛筆の「法華讃」を借りて「禅」の世界を展開した。

春の企画展「書人會津八一その制作の現場」(4月4日～7月2日)は、八一が作品を生み出すまでの舞台裏を、残されたメモ帳や書き損じの紙といった膨大な資料から見ていった。一つの作品を完成させるまでの八一の努力、妥協しない姿勢が感じられる展示だった。企画展「芝蘭の交わり～八一と麻青の書画」(7月11日～9月24日)、同「會津八一と吉野秀雄～師として弟子として」(12月22日～30年3月25日)は、ともに寄贈作品のお披露目展として企画された。前者は八一の中学時代の後輩で歌人の式場麻青(五泉市出身)の、また後者は八一の歌の弟子・吉野秀雄の、それぞれ遺族から贈られた遺墨や書簡を中心に展示した。＜麻青＞展では郷土新潟に根差した「文学上の共通点」などを、＜吉野＞展では八一と弟子との「師弟関係」を、残された資料から浮かび上がらせた。

【写真コンテスト】 応募点数は過去最多だった前回には及ばなかったものの、前々回並みを維持した。入賞入選作品の巡回展は従来の東京や奈良のほか、新たに京都の三千院(8月)と高松市内(10月)の2カ所で開くことができた。応募の広がり期待したい。記念館での展示(29年12月～29年3月)では、大賞作品を他の作品とは切り離し、「會津八一と吉野秀雄～師として弟子として」展の中の八一作品のそばに置いた。撮影者のモチーフとした短歌作品と並べて展示することで、文字通り歌と映像の融合を示すことができた。

【文芸講演会】 特別展「禅」関連では大徳寺の泉田玉堂老師が八一の書いた禅語の書に基づいて八一の心を語り(8月1日)、東洋大学の竹村牧男学長が良寛の法華讃に絡めて「禅」というものを研究者の視点から説いた(11月2日)。また富岡コレクションを長く研究してきた元早大特任教授の浅井京子さんが「禅画」の見方、楽しみ方を紹介した(10月20日)。企画展関連では日展会員の書家杭迫柏樹氏が「頑固一徹徹しい人が作る線が柔らかなのが不思議」と八一の書の魅力を力説した(5月25日＝「書人會津八一」展)。鶴見大名誉教授和泉久子さんは八一と友人式場麻青の文学を、心通わす二人の作品から読み解いた(7月14日＝「芝蘭の交わり」展)。批評家若松英輔さんによる「写生の詩学」は、3人の歌人、八一、斎藤茂吉、吉野秀雄が紡いだ歌の底流にある「写生」を分かりやすく解説してくれた(3月6日＝「八一と吉野」展)。

## 2、事業の内容

(ア) 展覧会事業 常設展経費 3,223,801円(28年度=2,736,292円=比18%増)。特別展経費 3,649,789円(28年度=4,677,480円=比22%減)。

	28年度 入館者数	28年度 開催日数	29年度 入館者数	29年度 開催日数	29年度 入館累計
4月	446	23	360	24	360
5月	682	26	541	27	901
6月	435	26	493	26	1394
7月	816	18	519	20	1913
8月	850	26	419	27	2332
9月	1459	26	326	21	2658
10月	390	21	709	22	3367
11月	460	26	897	26	4264
12月	240	14	393	14	4657
1月	425	24	308	24	4965
2月	330	24	255	24	5220
3月	477	23	464	21	5684
合計	7010	277	5684	276	

29年度観覧料収入=特別展 853,200円 常設展 1,067,000円(総額 1,920,200円)

## (イ) 展示事業

【特別展】「禅 ZEN」早稲田大学會津八一記念博物館 富岡コレクションを中心に

会 期：平成29年10月6日（金）～12月10日（日） 開催日数57日間

会 場：新潟市會津八一記念館、にいがた文化の記憶館

入館者数：1,911人

（前年度＝28.7.15～9.25 會津八一没後60年記念特別展～究極の趣味人～會津八一 vs 川喜田半泥子 3,031人）

主 催：公益財団法人會津八一記念館、新潟市、新潟日報社、BSN 新潟放送

共 催：公益財団法人にいがた文化の記憶館

協 力：全国良寛会、浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造

後 援：読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、産経新聞新潟支局

日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局

NHK 新潟放送局、N S T、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21

姉妹館協定を結ぶ早稲田大学會津八一記念博物館が所蔵する富岡コレクションの禅書画など、禅にまつわる作品を展示。富岡コレクションは、新潟県糸魚川市出身で、日本重化学工業株式会社の初代社長を務めた富岡重憲（1896～1979年）が、永年にわたって収集した美術品で構成されており、陶磁器も同時に紹介した。富岡コレクションの近世禅書画は他館からの借用依頼も多く、特に白隠筆《布袋すたすた坊主図》《蛤蜊観音図》は人気作のため、市民も注目して鑑賞していた。また、第2会場のにいがた文化の記憶館では、良寛書《法華讃》（新潟市蔵）も特別展示、全国良寛会との協力関係も築けた。

作品保護のため近世書画作品31点については前後期に分けて展示し、2度目の入館は団体料金になるリピーター割引も試みた。「禅」という難解に思われるテーマだったため、広報資料はこれまでにない軽妙なデザインを採用したが、更なる集客への工夫が必要だったと思われる。アンケートには学芸員の解説を聞いてよかった、理解が深まったとの回答が3件あり、今回のようなテーマの場合、入門者向けの案内解説やイベント等の重要性が明らかになった。

## 【企画展】＝記念館自主企画

### ①書人 會津八一 その制作の現場

会 期：平成29年4月4日（火）～7月2日（日） 開催日数79日間

入館者数：1,472人（前年度＝春「會津八一 ふるさとを詠う」1,657人）

會津八一の書の制作過程を当館所蔵の残された作品資料で紐解く展覧会。自由奔放、縦横無尽に思われる八一の書だが、「様本」と呼ばれるノートブックには、気に入った文字や、その配置など制作の準備段階が細部まで記されている。いざ本番を迎えても、何度も何度も揮毫し、その中から自らが納得した書だけに落款を捺していたという。その過程がわかるよう、たくさんの書物と書き損じの紙に埋め尽くされた部屋が写った肖像写真なども合わせて、様々な資料を展示した。その他、複製品とその草稿など、普段あまり展示しない作品も並べた。アンケートでは、制作の過程がわかって感心したという意見があった一方で、初めての来館者からは、もっと展示数や解説を増やしてほしい等の要望があった。

### ②新収蔵 式場麻青コレクション 芝蘭の交わり～八一と麻青の書画～

会 期：平成29年7月11日（火）～9月24日（日） 開催日数66日間

入館者数：1,186人（前年度＝秋「映画監督 小林正樹と會津八一」986人）

八一の旧制新潟中学の後輩で、歌人・国文学者の式場麻青の遺族から寄贈された麻青旧蔵品のお披露目展。八一と麻青の墨蹟や原稿、書簡など約80点を紹介した。また麻青の甥の式場隆三郎が支援した山下清の「長岡花火」（シルクスクリーン）も展示した。五泉市出身の式場麻青という著名ではない人物との交わりをテーマにただけに、出来るだけ身近に感じてもらおうと、期間中、展示作品を対象に「クイズにチャレンジ」を実施し、説明文をヒントにしたクイズに答えてもらい記念品を贈呈した。来館者からもとても良い試みであるという感想を得られた。一方、展示作品は、八一と麻青のそれぞれの短歌と俳句を詠じた文字作品でもあるので、文字資料だけでなく、写真や映像を駆使するなど、作品のイメージが浮かぶような資料を駆使することも必要であったように思う。

③吉野秀雄没後50年記念「會津八一と吉野秀雄」～師として弟子として～

会期：平成29年12月22日（金）～平成30年3月25日（日） 開催日数74日間

入館者数：1,115人

（前年度＝冬「會津八一と刻字」、同時開催 第10回写真コンテスト入賞入選作品展 1,336人）

會津八一の歌の弟子である吉野秀雄の支援者遺族から吉野の歌書作品を多数寄贈受けた。本展はそのお披露目を兼ね、吉野没後50年を記念して開催した。同展では八一と吉野の歌を比較するほか、八一と斎藤茂吉が防空壕の中で交換しあった歌書作品、八一、茂吉、吉野各々の書簡など約70点を紹介した。八一と吉野の師弟関係を示す書簡や、八一と吉野の短歌の違いについて、茂吉が批評した書簡など、歌人の人間性がにじみ出る内容に、来館者の関心を寄せた。また普段吉野の歌書作品に触れる機会が少なかつただけに、吉野の歌に興味を持った来館者もいた。

説明文のパネルの文字が小さくて読みにくいという不満と、展示点数が多かったせいか、スペースが狭く感じたとの批判もあった。また、展示を知らない人も多いので、もっと広報活動をしたらよいとの助言も頂いた。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（○は好評、△は不評）

回答者数349名（回答率6.1%）

展覧会名	作品解説の評価		展示量の評価		全体的評価	
書人 會津八一	○ 78%	△ 16%	○ 73%	△ 20%	○ 90%	普通 5%
會津八一と式場麻青	○ 90%	△ 7%	○ 89%	△ 9%	○ 94%	普通 4%
禪	○ 84%	△ 12%	○ 78%	△ 19%	○ 89%	普通 8%
會津八一と吉野秀雄	○ 89%	△ 10%	○ 82%	△ 15%	○ 97%	普通 3%
合計	○ 85%	△ 11%	○ 80%	△ 16%	○ 92%	普通 5%

（接客に対する評価）良い71% 普通25% 悪いor無回答4%

★総括＝入館者は昨年度よりも減少しているが、評価自体は例年並みといえる。

（主な来館者）※当館理事、評議員は除く

- ・4月＝県文化振興課佐藤まり子政策企画員、小川裕輔参事（19日）、江戸千家家元・川上宗雪氏、播磨一弘氏（古美術はりま）、中野宗順氏（23日）
- ・5月＝滋賀県高校教諭中川英樹氏（3日）、會津家親族引田道人氏（10日）、NSG美術館小林館長代理（11日）、歌人高野公彦氏（18日）、音楽家小川泰氏（19日）、書家杭迫柏樹氏（25日）、書家柳沢魁秀氏、ギャラリー81オーナー吉村光氏（31日）
- ・6月＝絵手紙講師谷雅子氏（9日）、日本画家大矢紀氏（12日）、北海道新聞取締役事業局長・鶴井亨氏、河北新報社取締役事業担当・鈴木紳一氏、東京新聞事業局長・松川貴、中日新聞名古屋本社事業局長・加藤宏幸氏、神戸新聞執行役員地域活動局長・門野隆弘氏、中国新聞事業情報センター長・江口淳氏、琉球新報営業局長・新垣順基氏、新潟日報読者局長・吉倉久一朗氏、同部長佐藤忠弘氏、同部長代理斎藤満貴氏、大矢紀氏（13日）、書家金子蘭香氏（20日）、書家栗研龍氏（28日）、巻菱湖記念時代館磯島氏（30日）
- ・7月＝江南区役所区民生活課課長高野和久氏（2日）、胎内市美術館学芸員伊東崇氏（4日）式場麻青の娘式場庶子氏、旗野博氏（11日）、神奈川県立近代美術館館長水沢勉氏、東京都写真美術館学芸員三井圭司氏、名古屋市美術館学芸員角田美奈子氏、読売新聞大谷一奈氏、矢崎秀行氏（12日）、早稲田大学今村事務長、徳泉氏（15日）、小学館エキスパートプロデューサー兼編集長矢沢寛氏（23日）、胎内市南都屋・須貝慎司夫妻（25日）東大寺大仏奉賛会筒井英賢師、高木敏治事務局長（27日）、全国良寛会会長長谷川義明氏、鳥取大学住川英明教授（30日）
- ・8月＝大徳寺泉田玉堂師（1日）、東北電力新潟支店副支店長佐藤信康氏（4日）、新潟大橋本博文教授（9日）青陵大・諫山学長（22日）、新潟美術館館長横山秀樹氏（27日）
- ・9月＝早稲田大学関係者（鎌田薫総長、総務B調査役、校友会事務局長、校友会県支部長、同幹事長（2日）今成様ご夫妻（3日）、絵手紙教授田中初子氏（9日）、式場隆史氏（企画展作品の借用先＝式場麻青の甥隆三郎の孫）夫妻（10日）、中村屋サロン美術館・河野奈美江事務長、太田美喜子学芸員（12日）、河北新報社整理部長・富樫茂氏、技術局部長・関勉実氏（21日）
- ・10月＝早稲田中高校校長堤校長（7日）、早稲田大学元特任教授浅井京子氏（20日）
- ・11月＝東洋大学竹村牧男学長（2日）、万葉洞大濱正氏（4日）、新潟大学高橋姿学長（5日）、NST制作部ディレクター武藤義弘氏（23日）、
- ・12月＝書家今井昭友氏（8日）、ロシア文学者亀山郁夫氏（10日）書家伊藤省風、路可先生（24日）
- ・30年1月＝新潟絵屋田代早苗氏（13日）
- ・2月＝土屋文明記念文学館細田亜津抄氏（18日）、全国良寛会小島正芳副会長、北嶋藤郷敬和学園大教授（20日）
- ・3月＝批評家若松英輔氏、吉野秀雄の義娘吉野美耶子氏、砂丘短歌会萩原光之氏（6日）、詩人中野完二氏（13日）

## (ウ) 講演会事業

### 【記念館自主企画】

#### ①八一祭記念講演会（有料 500 円）

テーマ：「日々新面目あるべし」

講師：泉田玉堂老師 大徳寺第 530 世（奈良・松源院住持）

日時：平成 29 年 8 月 1 日（火）午後 2 時～3 時 30 分

会場：日報ホール

入場者：200 人

#### ②特別展記念講演会 1（有料 500 円）

テーマ：「禅画入門—富岡コレクションの禅書画を中心に」

講師：浅井京子氏（元早稲田大学特任教授）

日時：平成 29 年 10 月 20 日（金）午後 2 時～3 時 30 分

会場：日報ホール

定員：80 人

#### ③特別展記念講演会 2（有料 500 円）

テーマ：「良寛筆『法華賛』と禅について」

講師：竹村牧男氏（東洋大学学長）

日時：平成 29 年 11 月 2 日（木）午後 2 時～3 時 30 分

会場：日報ホール

定員：150 人

#### ④企画展関連 第 1 回文芸講演会（有料 500 円）

テーマ：「書家から見た會津八一の書の魅力」

講師：杭迫柏樹氏（書家、日展会員）

日時：平成 29 年 5 月 25 日（木）午後 2 時～3 時 30 分

会場：日報ホール

入場者：120 人

#### ⑤企画展関連 第 2 回文芸講演会（有料 500 円）

テーマ：「北方の人 會津八一」—式場麻青あて書簡をよむ—

講師：和泉久子氏（鶴見大学名誉教授、当館評議員）

日時：平成 29 年 7 月 14 日（金）午後 2 時～3 時 30 分

会場：日報ホール

入場者：81 人

#### ⑥企画展関連 第 3 回文芸講演会（有料 500 円）

講師：若松英輔氏（批評家、評論家）

日時：平成 30 年 3 月 6 日（火）午後 2 時～3 時 30 分

会場：日報ホール

入場者：124 人

## (エ) 普及活動事業

### ①作品解説会

○新潟市會津八一記念館企画展—講師：喜嶋、湯浅学芸員

企画展会期中 第 2、4 日曜日 午前 11 時～正午

特別展会期中 毎週土・日曜日 午前 11 時～正午

②出前講座＝その他の団体主催による講演

- ・6月6日(火) 胎内市黒川地区公民館高齢者大学講座「ふるさとの美 會津八一の魅力」  
主催と会場：胎内市黒川地区公民館 講師：湯浅学芸員 50人
- ・6月11～13日 會津八一の旅「瀬戸内の名刹と巖島神社をめぐる旅 3日間」  
主催：會津八一記念館と新潟日報サービスネット旅行センター 同行解説：喜嶋学芸員 30人
- ・6月18日(日) レストランバス「水津シェフプレゼンツ～美食の巨人～魯山人が愛した新潟を食す」  
主催：ピースキッチン 同行解説：喜嶋学芸員 14人
- ・6月22日(木) 市政さわやかトーク便 講演「會津八一の魅力」  
主催：文学講座「しつとこ」 会場：砂丘館 講師：高岡事務長 15人
- ・7月16日(日) 市政さわやかトーク便 講演：「名誉市民 會津八一の魅力」  
主催：高志二丁目自治会 会場：ケアステーションるびなす 講師：喜嶋学芸員 19人
- ・8月5日(土) 作品解説：「會津八一遺墨展」講演：「會津八一と胎内市」  
主催と会場：胎内市美術館 講師：喜嶋学芸員 80人
- ・9月23日(土) 講演：「會津八一と奈良」  
主催：奈良県斑鳩町観光協会 会場：中宮寺 講師：神林館長 60人
- ・11月4日(土) 講演：「會津八一の学芸～書と歌碑について」  
主催：秋艸道人會津八一を偲ぶ会 会場：レンタルスペース 講師：喜嶋学芸員 48人
- ・11月9日(木) とよさか中高齢教養大学 講演：「ふるさとの美 會津八一の魅力」  
主催者：とよさか中高齢教養大学 会場：葛塚コミュニティーセンター 講師：湯浅学芸員 50人
- ・12月8日(金) 講演「會津八一について」  
主催：中条會津八一会 会場：胎内市立きのと小学校 講師：喜嶋学芸員 34人
- ・平成30年  
2月17日(土) 講演：「會津八一vs北大路魯山人～傲岸不遜の芸術家～」  
主催：荻川コミュニティ振興協議会生涯学習部 会場：荻川コミュニティーセンター 講師：喜嶋学芸員 48人

③所蔵品貸出展覧会

- ・「會津八一遺墨展」  
8月5日(土)～9月24日(日) 所蔵品2点貸出 胎内市美術館
- ・「守れ！文化財―博物館のチカラ、市民のチカラ―」  
平成30年1月13日(土)～3月21日(水・祝) 所蔵品6点貸出 新潟県立歴史博物館
- ・「會津八一書簡展」  
平成30年3月8日(木)～6月26日(火) 所蔵品2点貸出 新潟市立中央図書館

④ 第10回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

会場	開催期間	備考
1 早稲田大学會津八一記念博物館	4月1日～4月22日	入賞作品7点
2 奈良県立図書情報館	6月1日～6月18日	入賞入選30点
3 いかるがホール(奈良県斑鳩町)	6月22日～6月30日	入賞作品7点
4 中村屋サロン美術館	7月15日～8月6日	入選入賞30点
5 三千院(京都府)	8月26日～9月18日	入賞作品7点
6 高松市民活動センター(香川県)	10月1日～10月29日	入賞入選30点
7 胎内市産業文化会館(中条會津八一会)	11月3日～11月5日	入賞入選30点

⑤出版関係

- ・八一往復書簡集「雁魚来往」第5集の刊行

編者：雁魚来往研究会（近藤悠子、角田勝久各氏）

発行：會津八一記念館

収録＝出版社の養徳社・四季書房・中央公論社と會津八一との往来書簡の読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載。

⑥その他

- ・博物館実習受け入れ

期間：平成30年1月16日～21日 学生：新潟大学教育学部書道科 4年生 2人

(オ) 学習講座（参加者負担）

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）

砂丘館 毎月第1土曜日 受講者 18人

(カ) イベント

「會津八一の歌を映す」第11回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費2,432,073円）

- ・公募期間 4月から11月（作品搬入11月4日～15日）

・応募点数 151点

・応募人数 96人（県内72人 県外24人）

・審査委員 浅井愼平（委員長）、若松保広、和泉久子、神林恒道の4氏

・審査会 12月7日（木） 14時～17時 メディアシップ 2階 日報ホール

・審査結果 秋艸道人賞に新潟市江南区の高橋ジュンさん

奨励賞は5点（県内4人、県外1人）、入選は24点（合計23人、県内19人）

・記者発表 12月8日 午前10時～

新潟県庁内の県政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、高岡事務長

・授賞式 作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）

30年2月3日（土） 午後2時～4時

ホテル日航新潟 参加人数70人

祝賀会（会費制） 午後4時30分～6時30分 ホテル日航新潟 参加人数40人

「第二回新潟と京都奈良交流の集い」 29年9月3日 橋本関雪記念館（京都市） 参加90人

(キ) 鑑定会（経費233,600円）

春の部 平成29年6月4日（日） 総点数12点 認定数 6点 収入310,000円

秋の部 平成29年11月19日（日） 総点数12点 認定数 9点 収入390,000円

(ク) 新収蔵品

- 寄贈 會津八一の墨蹟 2点
- 會津八一書簡 19通（有恒学舎時代の同僚・山田直宛書簡）
- 會津八一の木額 1通
- 會津八一書入れ陶板 1点
- 吉野秀雄の墨蹟 1点
- 合計24点

○購入 會津八一の増村朴斎宛て書簡（封書7通、絵はがき1通）8点

(ケ) 販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間 29年度 (29年4-5月、30年2-3月)  
額装6点 未表装1点 色紙8点 販売合計 109,280円
- ・オリジナルグッズ制作 會津八一書「ふる庭の」「ぬかみその」2種類 1000本作成  
販売 609本、売上額合計 504,545円

(コ) 広報活動

①新聞

- [新潟日報] 記事106回 (展覧会紹介、講演会予告、グッズ紹介など)  
広告119回 (複製学規26回 展覧会93回)
- [毎日新聞] 記事1回
- [京都新聞] 記事1回

②テレビ、ラジオ

[BSN新潟放送]

○2017年度新潟市會津八一記念館特別展「禅」早稲田大学會津八一記念館富岡コレクションを中心に

・ラジオ告知30秒

(1) 前売券発売中	30秒	9/15~10/	5	61本
(2) 前期開催中	30秒	10/6~11/	5	51本
(3) 後期開催中	30秒	11/8~12/	9	102本
				計214本

・テレビニュース

10月6日(金) 18:15頃~ BSNNEWS「ゆうなび」富岡コレクション「禅」開催

・ラジオ番組特集

11月30日(木) 13:30~ 約10分「ゴゴイチ」約10分

特別展「禅」について。高岡事務長出演 (メディアシップ内スタジオ)

12月9日(土) 10:30~「Rca fue」、

10:30頃~「禅」いよいよ明日まで

③市報にいがた

展覧会、講演募集=5回

(サ) 学校団体見学

23校437人=小学校3校、中学校13校、高校6校、大学1校

(H28年度=19校408人=小学校2校、中学校12校、高校3校、中高1校、支援校1校)

- 4月25日 新潟市立中野小屋中学校 4人
- 26日 喜多方市立中学校 20人、新潟市立関屋中学校 23人、新潟市立東新潟中学校 16人
- 5月10日 新潟市立月潟中学校 5人
- 11日 新潟市立坂井輪中学校 39人
- 12日 新潟市立新津第二中学校 18人
- 16日 新潟市立葛塚中学校 12人
- 19日 東京学館新潟高校 42人、新潟市立白井中学校 14人
- 6月10日 新潟清心高校 24人
- 20日 新潟市立木戸小学校 12人
- 7月11日 新潟市立小針中学校 48人
- 20日 新潟明訓中学校 9人
- 23日 埼玉県立大宮光陵高校 77人
- 8月7日 新潟大学 19人
- 10月26日 新発田市立猿橋中学校 5人
- 11月2日 新潟県立三条東高校 9人、新潟県立十日町高校 12人、新潟県立見附高校 5人
- 11月10日 新潟市立小瀬小学校 7人
- 16日 新潟市立濁川小学校 14人
- 28日 新潟市立金津中学校 3人